

第4期第5回
札幌市市民活動サポートセンター
事業運営協議会

議 事 録

日 時 : 平成22年1月27日(水)
場 所 : 札幌エルプラザ 2階 会議室1・2

1. 開 会

事務局（会田主査） 本日は、皆様、お忙しい中をご出席いただきまして、ありがとうございます。

これより、札幌市市民活動サポートセンター事業運営協議会を開催させていただきます。議事に入りますまで進行を務めさせていただきます会田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

一つ、連絡事項がございます。本日出席予定の西井委員から、仕事の都合により欠席ということで連絡をいただいております。ほかの委員の皆様によりしくお伝えくださいという伝言を受けておりますので、お知らせいたします。

2. 財団法人札幌市青少年女性活動協会事務局長あいさつ

事務局（会田主査） 開会に当たりまして、市民活動サポートセンター指定管理者として管理運営を行っております財団法人札幌市青少年女性活動協会の高橋事務局長よりごあいさつを申し上げます。

事務局（高橋事務局長） 改めまして、皆様、こんばんは。

きょうは、年度末も近い大変ご多忙のところをお集まりいただきまして、ありがとうございました。

また、坂井委員からは大変貴重なアロニアジュースをいただきまして、きょうは、きっと皆さんの舌もなめらかに貴重なご意見がたくさん出されることと期待しているところでございます。大変おいしいものをご提供いただきまして、ありがとうございます。

早いもので、平成20年8月から平成22年3月までを任期としてスタートしました第4期の事業運営協議会でございますが、いよいよ任期も最後という時期が参りました。この間、委員の皆様方には大変活発にご意見を提供していただき、私どもにいろいろとご指導を賜りましたことにお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

今年度も残すところあと2カ月余りとなったわけでございますけれども、平成21年度におきまして、私どもは、市民企画講座、しみサポカフェなどの事業によりまして、協力団体の発表の場を提供し、また、団体活動の活性化を図り、市民に市民活動団体の情報を周知するなど、市民活動のさらなる活性化を図るための各種の事業を展開してきたところでございます。

また、昨年11月に開催いたしましたこの協議会でも報告を申し上げましたが、今年度が指定管理期間の最終年度になりまして、次期指定管理に向けてのヒアリングに臨み、おかげさまで、昨年12月に開催されました第4回定例会市議会におきまして正式に私どもが指定管理者としての議決をいただいたところでございます。本日の議題でも用意をしておりますけれども、私どもから提案をさせていただいた次期指定管理業務の内容につきましては後ほど説明をさせていただくこととなります。

いずれにいたしましても、次期指定管理者ということで、平成22年度から向こう4年

間、引き続き、エルプラザ公共4施設の管理運営を私ども協会が担わせていただくことになるわけでございます。この間、委員の皆様方からいろいろご指導いただきましたことを十分受けとめながら、しっかりとその意味を受けとめ、そして今後ともエルプラザ公共4施設の目的を達成すべく、さらには、この施設の利点を生かしながら、より多くの市民の方に活用されるよう、そして、市民活動の拠点としてその機能を発揮するように事業を進めてまいり所存でございます。

委員の皆様におかれましては、第4期の任期が終了するわけでございますけれども、どうか今後とも、これまでお寄せいただきましたご指導、また私どもに対するご協力なども含めて、引き続き、ご支援をいただきますようお願いを申し上げる次第でございます。

この間、第4期の事業運営協議会の委員として大変ご尽力を賜りましたことに深く感謝を申し上げます。また、今後ともご協力をお願いすることをあわせ、お礼にかえさせていただきます、開会に当たってのあいさつにさせていただきます。

本日の会議も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局（会田主査） 今回の会議につきましては、市民の皆様への傍聴席を用意しており、会議の経過を聞いていただくことができます。

さらに、市民活動サポートセンターのホームページにおきまして議事録を公表させていただきます。皆様の前にマイクがございますけれども、集音にご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。

ここからは、横江座長に進行をお願いいたします。

3. 議 事

横江座長 それでは、始めたいと思います。

皆さん、どうもこんばんは。

手元にあります次第に議事が3点載っております。1番目が平成21年度事業実施状況及び統計報告について、2番目が平成22年度事務ブース使用団体選考委員の推薦について、3番目が次期指定管理の計画についてということで進めてまいります。また、この次第の中にはありませんけれども、皆さんの手元に1枚物で三浦委員から出されました「4期事業運営協議会終了にあたり」という資料があるかと思えます。三浦委員からご意見をいただいております。そこで、第4期の事業運営協議会を振り返って、委員の皆さん一人一人に感想を述べていただく時間を事務局の方でとっていただいているそうですので、最後にご意見をいただければと思います。

最初に、事務局から議事（1）についての説明をお願いしたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

事務局（小野主査） それでは、平成21年度事業実施状況及び統計報告をさせていた

だきます。

1ページをお開きください。

前回の第4回事業運営協議会が11月25日に開催されましたので、それ以降に実施いたしました事業を中心にご説明申し上げます。

1ページの3段目の市民活動情報誌の発行「みんなのしみさぽ」です。お手元に22号があります。郵送しておりますので皆さんは既にごらんになっていると思いますが、エルプラまつりの報告から始まり、2ページ、3ページにはイベントカレンダーの充実を図りました。その結果、掲載団体からは、このしみさぽの情報を見て参加したり申し込みがありましたという非常にうれしい声もありました。そして、最後のページになりますが、4ページには、新連載の「コラム 相談員のつぶやき」、1回から4回のシリーズ物となっております。

また、今後の予定としましては、2月上旬に「号外」を発行する予定であります。内容としましては、市民企画講座特集、市民企画講座も20団体が間もなく終了いたします。そのトピックスごとで号外を作成中であります。そして、第23号が3月5日発行こちらにも編集作業を進めております。

続きまして、2ページに移りまして、しみさぽ調査隊です。

こちらには12月までの実施分を掲載しておりますが、1月は1月18日から1月24日に南区民センターで実施いたしました。また、来月2月10日から2月16日は北区民センターで実施を予定しております。この北区民センターを終了すると、全区の実施を完了するというところで目標達成になります。今後、収集したデータをまとめ、次年度以降の運営や事業展開に生かしていきます。

続きまして、4ページをごらんください。

2段目、3段目の事業名「パワーサロン」と「チャリ〜ン 大作戦〜つくってみよう募金箱〜」です。この二つの新規事業につきましては、報告の最後にパワーポイントを使用してご報告申し上げます。

続きまして、5ページに移ります。

下段にあります4施設交流支援事業「スノー&アイスクャンドル大作戦」です。

日時の欄をごらんください。こちらに記載されている日時は既に今現在やっている期間になっておりますが、雪の量や天候を考慮しまして、実施期間を調整しております。今のところ、2月11日から18日の実施を目指しております。また、委員の皆様方も、この期間中にエルプラザへお越しの際は、一緒に制作をしたり、キャンドルに点灯していただければうれしく思います。

続きまして、6ページの事業運営協議会です。こちらは資料の9ページをごらんください。

こちらにありますのは、前回の協議会時の検討議題でありました団体活動支援に関する業務、情報センターとの連携につきまして皆様よりいただきましたご意見またはアドバイ

スの中から、現在、具体的に取り組んでいる事柄のご報告をさせていただきます。

1 点目としまして、サポートセンターの主催事業実施時に関連図書の紹介を行いました。写真のとおり、1 階の情報センターより本と棚を2 階に運びまして、サロン事業の際には紹介を行いました。

2 点目として、普段も行っておりますけれども、購入図書のリクエストの用紙を現在はサポートセンターの窓口でもお客様に直接配布をして、一層の活用をしていただけるよう取り組みを行っております。また、団体登録の手続の際には、情報センターの貸し出し券の申込書を添えて団体登録の方々にもPRを行っております。

3 点目は、団体作成の冊子などの配置です。サポートセンターの特に打ち合わせコーナーでは、成果物の配架用の書棚を設置しました。早速、北海道ブックシェアリングから提供いただきました市民活動関連の図書を配置しております。

4 点目は、お手元に「情報センターだより」第40号と「HAPPYなくらしの120冊2」があります。情報センターの発行物を2階のカウンターや配架コーナーに設置してお互いのPRを進めております。

続きまして、統計の報告に移らせていただきます。

10ページの施設利用状況総括表をごらんください。前年度の同月に比べまして、サポートセンターは増加をしております。大変申しわけございません、数字の訂正が1カ所ございます。おわびして訂正させていただきます。市民活動サポートセンターの相談事業の7月の欄が45人となっておりますが、これは56人になります。よって、累計が444人となりまして、一番右端の欄が144人から155人となりますので、よろしくお願いたします。

続きまして、11ページの活動支援施設の利用状況です。全部屋で利用率及び利用件数が前年度の同月より伸びています。

続きまして、12ページは市民活動団体等登録数集計表、12月現在では1,632団体という数字が出ております。

続きまして、13ページの印刷作業室、PCコーナー利用実績です。こちらも、前年度同月と比較しますと、カラーコピーやカラープリンターの枚数は減っておりますが、白黒がふえている状況になっております。

続きまして、14ページは相談件数の集計表になります。前年度同月から比べますと、12月現在では150件余り増えております。その中でも、方法別の欄の面談というところが圧倒的に増えております。やはり、面談の件数が伸びているということは、相談員のきめ細かな対応、または我々職員も一生懸命に対応しておりますので、その結果と思われまます。最近では、1日6件もの相談がありましたという相談員からの報告も受けております。

最後に、15ページのホームページアクセス数です。アクセス数の増加を含め、現在、さっぽろまちづくり総合情報ポータルサイトの改修作業を札幌市とともに進めております。

何とか増加をさせたいと思っております。

以上で統計報告を終了いたしますが、先ほど申し上げたとおり、新規の二つの事業に關しましてご報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局（森口主任） サポートセンターの森口でございます。よろしくお願いいたします。

パソコン操作がありますので、着席させていただきます。

今、説明がありましたように、今回は2事業の実施状況報告をさせていただきたいと思っております。一つが「つながるひろがる市民活動！」というタイトルで実施しましたサロン事業です。もう一つが「チャリ～ン 大作戦～つくってみよう募金箱～」という事業になります。今、写真が2枚あるのですが、上の方が青い字で書いてあります「つながるひろがる市民活動！」の写真です。そして、下の子どもが写っている方が赤い文字の「チャリ～ン 大作戦～つくってみよう募金箱～」の写真となっております。この二つの事業を12月、1月の時期に実施したのですが、いずれの事業も市民活動サポートセンターにとっては新たな要素を持つ事業であったと思います。

それでは、それぞれご説明させていただきます。

最初に、パワーサロン「つながるひろがる市民活動」です。

こちらは、そのタイトルのとおり、サロン型の事業として実施したものであります。企画実施や地域での活動についての情報交換を通して、市民活動団体の連携や交流を促進し、活動推進力、情報発信力などを養成する機会とする、参加しやすいサロン形式で事業実施をすることにより、多くの方に市民活動に関心を持っていただく機会をつくり、市民活動及び地域活動の拡大と参加促進を図る、このような目的のもと、実施いたしました。この目的にありますように、参加しやすいサロン型の事業であるということです。これまで講座型の事業で室内に講師をお招きして実施する事業は多く実施をしていたのですが、オープンスペースといった参加しやすい場所で参加状況をいろいろな方に見ていただける中の事業というのはこれまでにない内容でした。

それでは、実際の実施状況がどのようなものであったかということです。

日時は、12月17日の夜でした。6時30分といつもの事業よりは少し早い時間帯で、8時30分まででした。場所は、打ち合わせコーナーで実施しました。参加人数は9人です。この9人という数字は、実際に参加者名簿にご記入いただいて最初から最後までいていただいた方ということで9人なのですが、いろいろな方が見ていただける中での事業実施でしたので、この日、同じ時間に打ち合わせコーナーを使ってミーティングをされている方、その他通りすがっている方、または事務ブースに入居されている方で足をとめてお話に耳を傾けていただいたり、中にはいすを引いて途中で座っていただいたりという方もたくさんいらっしゃっていたので、そういう方をカウントすれば、実際の参加人数はもっとふえてくる事業となっております。

そして、今回の事業には、目的にありました活動推進力や情報発信力というところを強めていきたいという思いがあり、実際に地域で活動を広めている方、ほかの団体と連携し

て活動を進めている、実践をされている3人の方をゲストスピーカーとしてお迎えしました。3人の中には、坂井委員や横江座長にもお願いしてお力をおかりして実施させていただきました。ありがとうございました。

まずは会場です。オープンスペースを実施した事業ということで、写真を2枚用意いたしました。向かって左側、女性がお話をしている風景が写っている写真ですが、これが通常の打ち合わせコーナーです。通常は、三角や半円型のテーブルを囲んでいろいろな団体の方が自分たちの打ち合わせや活動をしている場所です。そこを、向かって右側の写真ですが、テーブルなどの配置を変更し、会場を設営しました。奥に階段が見えますように、通りすがりの方からも隔てなく見ていただけるような配置になっております。これは全面を使う配置ではないので、打ち合わせコーナーの半面については通常どおり打ち合わせに使っていただけるようにしておりましたので、写真には写っておりませんが、この奥では通常の打ち合わせを進めている方もいらっしゃいました。日常の打ち合わせコーナーの利用状況を見ておりますといろいろな方たちが集まってお話をしているのですが、皆さんそれぞれの活動がありますので、隣のテーブルにいらっしゃる方に声をかけて、何をやっているんですかとか、一緒に話をしましょうよということとはなかなか起こりづらいのです。しかし、やはり同じサポートセンターに集う皆さんですので、そこは少しでも関心を持っていただければという気持ちもありまして、このような事業を行った次第です。

全体は2部に分けて進行いたしました。第1部は、「ゲストスピーカートーク」と題をつけまして、ゲストスピーカーの3の方にそれぞれの実際の活動事例を発表していただきながら、特に、活動地域に広げていく、ほかの団体と連携していく、そのようなことをポイントとしてコメントをいただきました。中でも、どの地域にも必ずキーパーソンはいるはずですよという言葉であったり、地域のニーズと自分たちの活動をあわせていくことが大切ですよという言葉が聞かれ、参加者からは、とても参考になる話でしたというご意見もいただいております。また、ともに活動していくことの大切さなども重ねてお話をいただいております。普段顔を見たことのある方としても聞いたことのない実際の実践事例であったり言葉が聞けたので、これは文字で読んだりする情報よりもずっと胸に入っていたのではないかなと思います。

スピーカーのお話を前半とした第1部があり、後半は参加者とのセッションに入っていく事業でした。そして、第1部と第2部の間には休憩時間を取りました。10分休憩だったのですが、その後には情報センターの紹介の時間を持たせていただきました。紹介の時間の中では、情報センターのスタッフがこの事業のためにピックアップした図書をパネルに設置して、実際のものを見ていただきながら、情報センターのスタッフの用意したコメントを私が読ませていただく形で紹介をさせていただきました。この日の参加者の中には、実は、普段はサポートセンターをご利用いただかない方たちもいらっしゃいました。そういうこともあって、「こんな情報がある場所があるんだ」とか、「わからないことがあったらここに行けばいいんだね」なんていう話も聞かれて、実際に情報センターに足を向け

ていただいたということもその後にはありますので、事業の中でのPR効果というのはやはりあるのだな、この間の協議会でご意見をいただいて実際に実践してみてよかったなと担当者としては思っております。

そして、第2部は参加者とのトークセッションです。この日の会場には、若者の就業支援の活動をしていらっしゃる方とか、イベントを通してまちおこしをしている方たち、例えばいろいろな団体の方とネットワークをつくらうとしている方たち、そのほかにも、これから活動を始めようと思っているけれども、どうしたらいいだろうという青年もいました。その方たちにそれぞれの自分の状況や思いを少しずつお話しいただきながら、ゲストスピーカーからのアドバイスだけではなくて、同じ参加者からのアドバイスもある内容でしたので、まさにトークセッションという形で実践していったのではないかなと思っております。

どうしても限られた時間の中ですので、話し切れないこともあります。そういうものは、終了後に会場に残って名刺交換をしたり、さっきの話だけどねなどと言ってさらに深い話を進めていったりする様子もありました。この参加者とのトークセッションの中では、ここから始められることは何でしょうかということがテーマとなって話し合われていました。実際には、ここにいるみんなで何か事業をしましょうよということにはならないのですが、この後の参加した方たちのお話をお伺いしますと、同じ参加者の方が実践している場所に行き一緒に活動したり、アドバイスをもらう活動を続けたりという動きが見られます。

まさに集まったここで始められることを一緒に考えていきませんかということは少しだけでも伝わったのではないかなと思っております。

最後に、この事業の参加者のアンケートを紹介させていただきます。

こちらは抜粋です。1番の感想などをぜひお聞かせくださいという項目には、横のつながり、勉強になりました、ぜひまた参加したいですというご意見をいただいています。あとは、横の交流が盛んになることは必要である。三つ目に、内容自体は勉強になりよかったです、ただ場所をもう少し考えてほしいです、階段を利用する人たちの動く音でお話が聞こえなかったですというご意見をいただきました。三つ目の意見に関しては、実際には多少の通る方の話し声は私たちも想定していたのですが、会の後半になると、ちょうど学生たちが就職のフォーラムか何かをされていたと思うのですが、それが終わってバタバタとおりにいった時間があったのです。ただ、この事業についてはいろいろな方たちが見える中で実践していくことに意義があると考えておりますので、同種の事業を実施するときも、やはり、閉鎖した空間に入っていくのではなくて、同じ打ち合わせコーナーでも少し奥の窓側の方でやってみるといった工夫をしていくことで三つ目の条件はクリアしながら同じ事業を行っていただければいいかなと思っております。

最後に、今回のような事業を実施する場合に取り上げてほしいテーマをお聞かせくださいという質問も設けました。この中では、参加者の横の連絡票の作成、あとはネットワークづくり「(NPO等、団体の)」という括弧書きがあります。この中でもわかりますよ

うに、実際に集う方たちがどのようにつながっていくのか、つながっていくためには何が必要なのか、自分たちがどうしたらいいのだろうか、そしてサポートセンターはどんなことができるのだろうかという要素がこの中にはあると思います。こんな時代ですので、すぐに電話番号を教えてもらったりということはなかなか難しいと思います。そういう中でも、やはり、顔を見知って、お話をした中でお互いがわかって、つながっていくきっかけづくりをしていくことは、私たちの中でも大事な事業となっていくのではないかなと感じた事業でした。

一つ目の事業についてはここまでです。

続きまして、「チャリ～ン 大作戦～つくってみよう募金箱～」という事業の報告です。

これは、さぼーとほっと基金を支える会、財団法人札幌市青少年女性活動協会主催でございまして、エルプラザのほか児童会館や子育てのフェスティバルといった会場でも同種の事業を実施しております。子どもたちの寄付マインドを育てるといところが大きな目標となっていますので、ほかの施設とも連携しながら進めていく事業という位置づけのものであります。

事業目的ですが、さぼーとほっと基金の仕組みを通じて寄付の大切さを知ってもらう、オリジナルの募金箱を作成し、家で日常的に使ってもらうことにより、自然に寄付マインドを育てるということでした。実際に実施したのは、年が明けて1月16日の10時から16時の時間帯です。場所は、札幌市環境プラザの打ち合わせコーナーです。参加人数は21人で、内訳は、子どもが11人、大人が10人です。

まず、会場の設定からです。一つ前のスライドの中で場所が札幌市環境プラザの打ち合わせコーナーと書いてあったので、間違いではと思った方もいらっしゃるかと思うのですが、これは環境プラザの場所を使って実施した事業であります。ふだん、サポートセンターでは子どもたちの利用はゼロに等しいです。やはり大人の方たちが自分たちの活動をする場所ですから、実際に子どもたちには認知度の低い施設であると考えております。その中で、子どもたちを対象とした事業を私たちがするためにはどうしたらいいだろうかということを考えたところ、この場所の設定になりました。この日は、環境プラザが主催する「エコ+1」という事業も同時開催をしており、テーブルを並べて2事業を実施する形になりました。下の向かって左側の写真は「エコ+1」の様子、右側が私たちの行った募金箱づくりの様子です。手前のピンク色のパネルは、子どもたちに説明するために作成した募金パネルです。実物については、現在、サポートセンターの入り口、印刷作業室横に掲示してございますので、お帰りの際にはぜひごらんになっていただければと思います。

では、実際にどんなものをつくってどんなことをしたのかということです。

まず、クラフトの内容の説明です。これは、えとのトラ、ゾウ、キャッピーです。キャッピーというのは、市民まちづくり活動のマスコットキャラクターです。これらを題材としたペーパークラフトを作成しました。基本的には簡単な内容として、装飾の自由度を持たせることによって幅広い年代の子どもたちが参加できる内容を提供しました。実際には、

立方体に近いペーパークラフトです。やはり、曲線を切ったり形づくることは、幅広い年代の子どもたちを対象とした事業としたとき、子どもだけは難しさがあるだろうということで簡単な製作にしました。そのかわり、フェルトや紙粘土を使ったり、折り紙を使ったりして、装飾の部分でそれぞれの個性を發揮しながら、幅を持たせてそれぞれの年齢に合った作業ができるような取り組みとしました。

そして、製作する前には、さぼーとほっと基金の解説を行いました。担当スタッフがパネルを用いて子どもたちに向かって話をしました。写真に写っているのは、小学校6年生の女子2人です。やはり、サタデー・テーリングの参加者でした。特に高学年の子どもたちは、そういう仕組みなんだとか、市民活動をしている方たちについて真剣にお話を聞いたり、そこから発展して市民活動や社会参加の話につながっている場面もありました。

実は、当日はすごい吹雪でした。子どもたちだけで参加することの多いサタデー・テーリングの参加者はちょっと難しいのかなということがあったのですが、それでも午前中からぼつぼつと来場者があり、午後になると天候も回復して多くの方に参加いただきました。親子がいたり子どものグループもいて、実際には会場に子どもたちの声がずっと響いているような状況でした。向かって右側の写真の男の子が持っているのは、絵のついていない立方体に自分で絵をかいて工夫をした様子です。事業の途中にはマスコットキャラクターのキャッピーにも登場してもらい、館内でPRをしたりという活動も行いました。この中でちょうどのぼりを持っているのが先ほどのスライドの少年です。「PRに行くんだよ」と言ったら、「自分も行きたい」と言って一緒に会場を練り歩いてくれて、「僕もやったんだよ」なんて言いながらPRをしてくれました。

そして、参加者の様子のその2です。写真に写っているのは大人の参加者たちです。子どもたちを対象とした事業だったのですが、実際には大人の参加者も多くいました。写真に写っている2人の女性は、折り紙を広げていく活動をしている人たちで、このエルブラザの中で別の事業を行っていたのですが、その時間の合間に参加をいただいております。そのほかにも大学生の参加があったり、実際には大人も楽しんでいただける内容だったと思います。当初は3時を終了予定時刻にしていたのですが、後半から天候が回復して人が集まってきたこともあり、4時まで時間を延長して実施しております。

そして、この事業のまとめです。

工作という参加しやすい内容を通して、幅広い年代の方に、さぼーとほっと基金だけではなく市民活動について伝えることができる事業でした。市民活動サポートセンターは、通常は子どもの利用がない施設であるため、今回のような事業は市民活動サポートセンターにとっても貴重な経験となりました。次世代のまちづくりを担う子どもたちに向けた事業に今後も取り組み、まちづくりのすそ野を広げていきたいと考えています。やはり、子どもたちはこれからまちづくりや市民活動を支えていく次の世代の人たちです。その人たちが早い段階で市民活動や社会参加ということに触れていく機会をつくることは、もう一つ新たにサポートセンターが取り組んでいくべき課題と考えてもよいのではないかと思います。

った事業でした。

ここまでで二つの事業の説明とさせていただきます。

長時間、ありがとうございました。

横江座長 どうもありがとうございます。

報告、説明がありましたけれども、運営状況について皆様からご質問がありましたらお願いしたいと思います。

以前にも、利用状況等あるいは情報センターのことにつきまして説明をいただいて、そちらの推進策を図るということでいろいろやられているものと、あとは市民企画講座がかなり軌道に乗ってきていること、また、今紹介いただいた2点を取り組んでさらに市民活動促進を図るということで行っておりますけれども、いかがでしょうか。

井上委員 14ページの相談件数の推移ですが、面談の昼間の件数が非常にふえていて、中身を見ると、事業・イベントが44件ふえているということです。いわゆる一般的な相談のイメージですと、どうしたらいいだろうということでも何も知らなくて来る方が多いようなイメージがありますが、これを見ると、ある程度活動されている方が来られているようなイメージを受けまして、市民企画講座などでかかわってきた人が来たりというケースがあると思ったので、このあたりの相談の動向でほかに特徴的なところがあったらぜひ教えていただきたいと思います。

横江座長 事務局、いかがでしょうか。

事務局(小野主査) 事業・イベントが増加しております。相談内容の報告を見ますと、やはり、自分の団体の事業展開について具体的にアドバイスをいただきたいとか、どんなイベントがあるのでしょうかとか、自分たちの活動が対象となるイベントがあるのでしょうかという事例が多いと思います。具体的なことであれば、三浦委員がいらっしゃいますので補足していただければ幸いです。

三浦委員 事業・イベントの分類は、具体的にもう決まった事業という分類にしています。その中には、企画内容も入りますし、広報も入ります。その他、実際にこのイベントを動かすときのいろいろな相談も含まれています。

この期間で印象に残っているのは、個人事業主の人で、商売がうまくいなくてNPOに活路を求めて相談に来たというケースが僕の場合は多かったように記憶しています。例えば、個人で赤帽をやっている人で、仕事が全然ないのでNPOの福祉運送などでいい方法はないでしょうかという相談がありました。それから、個人店舗をやっていて、全然売れないので、半分つぶしてNPOに貸すなんていう方法はどうかという質問が何件かありました。

横江座長 ありがとうございます。

井上委員、よろしいですか。

井上委員 ありがとうございました。

横江座長 ほかに何かございますか。

坂井委員 質問ではないのですが、パワーサロンの件で、先ほどの説明にもありましたように、横の連携と申しますか、そういうものに関心を持って来てくれて、私は前からそればかり言っているのですが、そういうことに関心が多かったということでした。その後、4人の方からご連絡をいただいて、中には年賀状までちょうだいした方もいらっしゃいます。そして、1人は入会していただきました。そういうようなことで、いろいろと皆さんも関心を持っている方が多いんだなということはこの会を通じて感じましたので、ちょっとご報告しておきます。

横江座長 ありがとうございます。

ほかに何かございますか。

石村委員、お願いいたします。

石村委員 質問ではないのですが、実は、エルプラザまつりに私も昨年初めて出席してみました。大変なにぎわいで、私もいささか驚きました。そして、いろいろな世代の方が参加されておりました。私は、あれを見ながら、安全・安心の対策はどのようにされているのかとちょっと心配しながら参加させていただいておりました。大勢の場合は、やはり、だれか案内人がいるとか、腕章をつけた方がどこかに立っているとか、万が一の場合には避難誘導をされるとか、そういう係が必要かなと思いながら参加させていただきました。

これは質問でも何でもありません。ただ、私の感想として、そういう人員の配置から必要ではないかと思いながら参加させていただきました。

横江座長 どうもありがとうございます。

そうですね。2階もちょっと工夫してやられていたので、人が非常にたくさんおられて、これほど人が集まってくださるのであれば、今、石村委員が言われたような対策もいろいろボランティアを募ってやっていかなければいけないのかなといううれしい状況でありました。

ほかにございますか。

宇野委員、どうぞ。

宇野委員 13ページの印刷作業室やパソコンコーナーの利用実績を見て今回思った意見です。ここに出てくるのは、機械のカウンターで出てくる数字なのです。実際にいろいろなセンターの利用者ということで言うと、このまとめ方も一つの方法ですが、そこに実際に印刷機を借りに来た、使用した団体数とか、パソコンコーナーと言いながら、これはパソコンを通じたプリンターの枚数ですね。でも、そこで文書を会議前に作成したとか、そういうパソコン自体の利用が出てきていません。次年度からは、この辺の数字とあわせて、例えば一声かけていただく利用者数をカウントしていくとか、そういうことで団体というか活動数を補うようなデータをとって行って運営協議会に生かしていった方がいいのではないかと思います。

横江座長 ありがとうございます。

データのとり方について、数字のとり方もいろいろ工夫されるといいのではないかと

うことで、実際に利用されている方々あるいは団体数について、より把握できるように工夫していただきたいというご意見が出ましたので、今後、ちょっと工夫してやっていただければと思います。

岡田委員 今回の宇野委員の意見に私も賛成ですけれども、それを事務局で把握するのはかなり大変だと思うので、簡単にノートでもつくっておいてそこに記入してもらう程度で、すべては把握できないにしても、そういう中で労力を削減しながら率を上げる方が簡単でいいと思いました。

以上です。

横江座長 ありがとうございます。

榊委員、どうぞ。

榊委員 それに関しては、私も宇野委員の意見に賛成です。私も印刷機をよく使っているのですけれども、その内容を、例えばニュースをつくっているとか、チラシをつくっているとか、用途もそこに加えていただけるともっとよろしいと思いました。

横江座長 ありがとうございます。

井上委員、どうぞ。

井上委員 今回の議論ですけれども、今はもう既に利用票にまとめて書いていると思います。あとは、今言ったような活動の種別、例えば広報の準備とか、打ち合わせとか、そういうものをちょっと加えて、実際に団体借りをするとき、印刷機だけとか単体ではないと思います。ある用途に応じていろいろなものを連続的に組み合わせて使っていると思いますので、そういうものをある程度データベースにするようなことが、今のものをちょっと手直しをするだけでもできると思います。そういうデータをつくっていくと、後でいろいろと集計がしやすくなるのではないかと思います。ですから、そんなに新しく何かをするということではないと思います。

宇野委員 質問ですけれども、利用票はありましたか。

横江座長 あります。

宇野委員 印刷機、コピー機が使えますとあって、特に何か書くわけではなかったように思うのですが……。

榊委員 最後に書きますね。

井上委員 事務ブースの人は一覧表に必ず書いて帰りますし、一般利用者は紙をもらって帰ります。

宇野委員 パソコンは書いた覚えがないです。

三浦委員 書きますよ。

井上委員 何がしか、使った人は書くのが原則ですね。

宇野委員 「使っていいでしょうか」と言ったら、「どうぞ、どうぞ」と言われて、何も書かないし、「終わりました」と言っても、何も言われたことがないですよ。

印刷機ではそうやって書くことはあるのですけれども、印刷機を回している最中に暇だ

ったりするときに、その場にアンケート用紙のような形であれば書きやすいとか、岡田委員が言ったような方式で、そこに紙がある、パソコンのそばにちょっとした合間に書ける用紙があるとか、そういう方が終わって改めて何かを書くときに、これにも答えてくださいというよりはいいと思います。私の体験で言うと、パソコンは書いた覚えがなかったので、統一されてもいいのかなとは思いました。

井上委員 来たときに渡すのはいいかもしれないですね。帰るときに渡されることがたまにありました。

嶋委員 今のパソコンのことに付随して、パソコンの利用に関しても、書類作成とか、検索をするとか、どういうものに利用されているのかという使用目的を少し聞き取ればいいと思いました。

もう一つは、印刷の部屋には折り機があったように思いますので、どうせなら関連したものをすべてをカウントしていくものがあつたらいいかなと思います。

横江座長 坂井委員、どうぞ。

坂井委員 今、皆さんが聞いていることはそれなりに意味があるのですが、僕は、その数字が細かく出てきて、それをどう生かすのかというイメージが全然わからないのです。例えば、30団体使った、80団体使った、その結果、それでは一体どうするのか。何か対策とか、いいのか悪いのか、その細かい数字を何に生かすのか、そのためにどこが必要なのか、そのことがよく私はわからないのです。

横江座長 いろいろ工夫してという意見が出ましたし、どういったデータをどう活用するか、あるいは、どう推移を見ていくかということについては、そういったものが出てきましたら、いろいろ活用方法や見方を考えてやっていただければと思います。今いろいろと意見が出て、そう苦労しなくても、ちょっと工夫すれば、いろいろなデータから団体も書きやすくして利用しやすくしてということになると思いますので、その辺を酌み取ってやっていただきたいと思います。

ほかにご意見はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

横江座長 では、2番目の議題に入ります。

平成22年度事務ブース使用団体選考委員の推薦について、事務局からご説明をお願いします。

事務局(小野主査) 資料の別紙2をごらんください。

平成22年1月4日現在の事務ブース使用状況であります。

区画数19区画のうち、空き区画が3区画、今年度3月末で3年を迎える団体の区画が5区画となっております。現在、新たな入居団体の募集を行っております。平成22年度の入居団体選考委員会を2月26日に開催する予定であります。

毎回のことではありますが、協議会の委員の方々に選考委員として委員会へのご出席等をお願いしておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、選考委員は4名となっております。札幌市からは高橋市民活動促進担当課長、財団からは岡本エルプラザ公共4施設課長となります。この事業運営協議会の委員より2名の選出となりますが、男女の比を考慮させていただきたいと思います。そこで、男性の委員に、また、事務ブース入居団体の把握をより深めていただきたく、広く経験をしていただきたいと考えておりますので、過去に就任経験のない方にぜひともお願いしたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

横江座長 ありがとうございます。

ただいまご説明がありました。いつもは委員の中からお願いしておりますけれども、今まで経験のない方で、今回、委員を引き受けていただける方はいらっしゃいますか。

横江座長 石村委員と井上委員の手が挙がりました。

よろしいですか。

井上委員 ただ、男性と女性のバランスがありますので……。

横江座長 事務局、どうでしょうか。

事務局（小野主査） 札幌市の高橋課長は女性です。

横江座長 それでは、井上委員と石村委員ということで、皆さん、推薦の方はよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

横江座長 では、石村委員、井上委員、よろしくお願いいたします。

次に、3番目の議題ですけれども、次期指定管理の計画について、事務局から説明をよろしくお願いいたします。

事務局（岡本課長） それでは、指定管理の計画につきまして、私、岡本から説明をさせていただきます。

本日は資料等をお渡ししておりますけれども、きょうの運営協議会の中では、今後4年間の計画につきましてこのような形で計画をしているということを報告させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

資料の別紙3をごらんください。

表紙がございまして、実は、この計画書の中身というのは抜粋でございます。全体では100ページ程度にわたるものでして、エルプラザ公共4施設全体に係る部分のある一部と市民活動の部分を今日は皆様に資料としてお渡ししております。

まず、1ページをごらんください。

総括的事項に関する取り組みということで、まず、この札幌エルプラザ公共4施設をどんなふう運営していくかということをお初にうたっております。このエルプラザ公共4施設は、市民の方が集い、また出会い、人とつながって、自主的な活動を通して結びつきを強めていく、そういった場を目指すということで、さまざまな年代の人が相互に影響し合い、それらを通して学び、成長する交流の場づくりを進めます。

基本理念としては、「人とひととが結びつく、世代を超えた交流と学びあいのステーション」を掲げております。4年間の長いスパンですけれども、その中で、運営の基本方針として五つほど挙げております。

一つ目は「活動と体験をとおした学びの場」です。これは、市民活動だけではなく、男女共同参画、消費生活、環境保全、それぞれの分野を指しております。また、「啓発」という言葉もこの説明のところは使っておりますけれども、札幌市がつくった施設として、ここは、それぞれの施設の設置目的がございますので、そういったものを果たしていくということになっております。

二つ目は「あたたかな市民の交流と、集いと協働の場」です。近ごろは、いろいろなウェブ上でのコミュニケーションが多いのですけれども、やはり、こういった施設があるので、ここで人と人が本当に顔を合わせて、言葉を交わした交流が非常に重要だということで、こういった理念を掲げております。

三つ目は「さまざまな情報の収集・提供の拠点」です。こちらは、市内全域に向けての情報発信、収集が必要だということを書いております。

四つ目は「市民の立場に立ったサービス提供」です。こちらも、公共施設として多くの方に使っていただいている上で、やはり管理上での方向だけではなくて、使う方にとって便利がよくて、皆様に公平にサービス提供ができる施設ということが必要になってまいります。

五つ目としては、「経費のダイエツト」と書いてありますけれども、やはり、こういった施設管理に関してはすべて経費の節減を目指していくということになっております。

次のページをめくりますと、イメージ図ということで簡単に書いてありますけれども、真ん中の箱がエルプラザ公共4施設です。そして、お使いになる市民の方や市民活動の団体の方が上の四角の中に書かれております。団体や個人の市民の方は、場所を使うとか情報を収集するということで使っていただいたり、あとは、右、左、両方のところに「連携」という矢印が書いてありますけれども、このようにさまざまな機関と連携を組んでいくことが非常に重要です。これによって、活動の範囲、または情報の収集の範囲が広がりを見せていくと思います。左側では、市民活動団体、小・中・高の教育機関との連携、あとは活動協会が市内で管理運営をしております施設との連携も必要になってまいります。右側の連携相手としては、事業者、これは企業も含まれます。または行政、公共施設、さらには地域とのつながりも必要になってくるということで、こういったところで少しずつ連携の輪を広げていこうと考えております。

3ページには、数値目標として掲げております。年間で施設全体では大体55万人の利用があるわけですけれども、それを4年間継続していきたいと考えております。この数値目標の中では、市民活動サポートセンターの新しく登録する団体数を目標数としております。

続きまして、4ページをごらんください。

こちらは公共施設としての平等利用といったところの配慮とか、5ページには、環境プラザを中に設置しておりますので、施設全体で環境に向けた配慮を展開していくということで書かせていただきました。

続きまして、もう一枚めくっていただきますと、ページ数が45と書いてあります。ここからが市民活動サポートセンターの部分になります。「はじめに」ということで前書きがありますけれども、中身としましては46ページをごらんください。総合的な基本方針としまして、次のページにわたりまして五つの項目でお示しさせていただきました。

1番目は「これから活動を始める人たちのための市民活動の機会創出」、2番目は「情報の円滑な共有と提供」、3番目は「市民まちづくり活動を担う人材の育成と組織力の強化」、4番目は「行政、企業との協働機会の創出」、そして5番目としては「地域に根ざした活動の促進」というふうに分けております。こちらの方は、これまで市民活動サポートセンターを運営していく中で、また、この運営協議会の皆様からいただきましたご意見をこれからの運営に反映していくべく、こういった長期の方針を掲げております。

詳しい内容といたしましては、この先の49ページ以降となっていきます。

余り時間がないのですけれども、簡単にご説明いたしますと、50ページでは、利用の登録、アンケート調査、掲示物、情報誌の発行、そして、今一番大きな課題となっておりますのが、51ページにあります「さっぽろまちづくり総合情報ポータルサイト」がございます。今、札幌市と協議を重ねて、これをよりよいものに改善しているところでございます。エルプラザの基本理念としては、やはり、この場に人が集っているいろいろと学習をさせていただくことを考えておりますけれども、この場に集うことができない方々へのサービス提供、または地域での市民活動の振興、そういったことを目指して、ポータルサイトの充実は非常に重要な課題だと考えております。

続きまして、52ページをごらんください。

これまでもやっておりましたけれども、サテライト事業としまして、我々がこちらの方に市民の方が来てくださるのをただ待つだけではなく、我々から出て行ってさまざまな情報提供、または情報収集などをしていく、サテライト事業を掲げております。53ページには市民活動相談、54ページには研修や講座などについて書かせていただいております。それぞれの団体が弱みとしているところをそのような講座を経て強みに変えていく仕組み、また、55ページでは団体の活動の強化をサポートしていく事業も考えていきたいということが書かれております。56ページに行きますと、先ほど報告でもありましたけれども、サロン事業です。顔を合わせて、言葉を交わして、いろいろな人が集って、安全かつ温かな情報の交流、そういった場づくりをしていこうと考えております。

あとは、57ページには、企業と市民活動団体をつなげていくということも計画しております。58ページには、事務ブースの提供、会議コーナー、印刷室の提供などが書かれております。59ページには、事業運営協議会、この会議のことを記載させていただきました。60ページでは、こちらは、前段会議はもうスタートしているわけですが、先ほど

申し上げました「さっぽろまちづくり総合情報ポータルサイト運営委員会（仮）」を組織しまして、専門家の方々の意見などもいただきながら、札幌市内にどういった情報が不足しているのかということを考えてつくっていきたいと思っております。

85ページの方には、前回の運営協議会でご検討いただきました情報センターです。こちらの方でも市民活動に関する情報提供の発信の場所と考えておりまして、そのための計画を書かせていただきました。

非常にかいつまんだ形で、駆け足で説明させていただきましたけれども、このような形で平成22年度から平成25年度までの4年間の指定管理者業務として行っていく予定になっております。この計画書につきましては、それぞれの専門分野の方々と札幌市の職員による選定委員会を経まして承認を得た内容になっております。ただ、この先、札幌市との協定書を取り交わして、そこからスタートするという形になっておりますので、その協定書の中でさらに細かい取り決めがされていくという仕組みになっております。

本日は、駆け足の説明にとどまらせていただきますけれども、資料としてお渡ししておりますので、皆さんもごらんいただければと思います。

以上です。

横江座長 ありがとうございます。

では、きょうの議題につきまして（1）（2）（3）と終わりましたので、最初に申し上げましたとおり、第4期事業運営協議会を振り返って、委員の皆さんそれぞれに感想をいただきたいと思っております。

では、こちらの資料を三浦委員からいただいておりますので、三浦委員からご発言いただいでよろしいでしょうか。

三浦委員 思いつきをまとめたという感じのもので、余り一所懸命、突き詰めて考えたものではないのですが、1番の協議会の体制のところを総体的に言えば、私は、3期と4期の協議会に参加したのですが、印象としては、やはり費用対効果という面で考えるとちょっと効果が薄かったかなという印象があるのです。そういう面でここに書きましたので、ちょっとネガティブなものばかりになってはいますが、この表に沿って簡単に説明します。

協議事項の反映については、事業報告のところ、委員から出た意見をこういうぐあいに反映してきましたという報告をもらいましたけれども、できなかったものも出さないと、一体的な協議の報告にはならないなという感じがします。それから、限られた時間で言い尽くせていない意見が多いということも協議事項の反映の欄に書きました。ここで出た意見を反映できるかどうか、センター側でもんでもらって反映してもらおうという順番になるので、もし、反映される意見だとセンター側で判断した場合は、もう一回、提案した人からもうちょっと詳しく聞き取るという作業がもう一段階ないと、本当にその発言した委員の気持ちは伝わらない、反映されないと思うのです。当然、そこには、1段階、また一つ動きができるので仕事としてはふえますけれども、やはり、この協議会の意見を

本当に活かすのであれば、最低限、これぐらいのことをしなければ本当の意味で反映はされないだろうという気がしました。

議題については、協議のポイントがつかめない議題があったと書きましたけれども、やはり、何を考えていいのか、問題用紙に何が書いてあるのかよくわからない議題はあったように思います。この限られた時間の中で各回で議題が変わっていくというのは時間的に無理だという印象を持ちました。ですから、2回目と3回目に同じ議題を複数回協議するとか、それぐらいきちんと深めるやり方が必要ではないかと思いました。

それに絡みますけれども、協議時間と委員数ということで、この時間の中でこのメンバー全員が十分に意見を出して、それをさらに闘わせるのは不可能だと思います。恐らく、協議時間数はふえないと思います。ふえなければ、委員数を減らしてもっと意見を積み重ねていって深めるというような体制をとってもらいたいと思いました。

収録の必要性は省略します。

今回、第1回目のときに、情報交換という意味でメーリングリストなどをつくりましたけれども、実際にこのメーリングリストで意見を交換するのは難しい、不可能だという実感は十分持ちました。ただ、時間数が圧倒的に少ない中で、限られた時間で、自分の言いたいことを言わなければならないということもあって、当然、言い残すこともたくさんありますので、そういう発言を補足する補助的なものとしてメーリングリストみたいなものを使っていくということも可能性としてはあるのではないかと思っています。

それと、有志の集まりを3回ほどやりましたが、残念ながら、成果は上がらなかったと思っています。この本会議を補足するような目的で動き出したと私は思っているのですけれども、この本会議自体ががちりしていないと、そういうサブ的なもので埋めようとしても、それは本末転倒だなという気はしました。そんな印象を持ちました。

それと、裏面になりますけれども、「何をサポートするのか？～団体カルテの可能性」と書きました。この協議の中で市民企画講座とか事務ブースの議題が上がったときに、その団体の何をサポートするのかという話題があったと思います。そこら辺がどうもぶれてきている感じがありました。市民企画講座の報告書を見ますと、担当職員がどんなサポートをしてどんなことがありましたという報告があったのですが、どうも、その報告が、担当ごとによって視点も違うし、見どころも違うし、中には備品だけの報告があったりということがあります。やはり、管理者として、サポートする指標、物差しをつくるべきではないかと前から思っていました。

ここに、一つの例として思いつくまま書きました。その視点を上の方に書きましたけれども、団体目的の実現能力というところにおいて、その団体の持っている企画の能力や広報の能力、実施の能力というものを評価して、そういうカルテをつくっておくことによって、市民企画講座でどこをサポートするのか、また、事務ブースではサポート期間が1年と長期になりますけれども、そのタイムスケジュールの中で評価点の低いところをどうサポートしていくのかという見方をしていく方法もあるのではないかと思いました。

以上です。

横江座長 ありがとうございます。

事前に、三浦委員の方から、今までやってきて思いついたことを書いたということでした。

では、石村委員、いかがでしょうか。

石村委員 私は、市民公募から参加させていただきました。最初の会議のときに、私はまちづくりについて大変関心があるのだという話をさせていただきました。今回の計画を見ますと、サポートセンターもまちづくりに参画するというような計画がたくさん載っておりますので、まちづくりとしては非常に存在感を示せるのではないかと思います。

実は、サポートセンターというのは、団体やNPOの方は知っているのですが、意外に市民からの知名度が低いところがあるわけです。やはり、知名度を高めるためにも、まちづくりの中にどんどん意見を出すというのは非常に大切ではないかと思います。そういう面で、次年度の計画というのは非常に効果が出るのではないかと思いますし、なおかつ、サポートセンターとしての存在感を大いに示せるのではないかと思います。また、信頼され、多いに評価されるのではないかと思います。そういう面では大変期待はしております。

横江座長 ありがとうございます。

22年度の計画も、2ページを見ましてもなかなか広範囲にわたる計画になっていますし、いろいろな内容が盛りだくさんで、職員の方もなかなかご苦労なさるかと思います。

では、井上委員、いかがですか。

井上委員 私も3期のときに公募で入って、そこから4期まで務めさせていただいたのですが、感触としては、本当に市民活動をサポートしているという体制ができつつあると僕は思いますし、やはり、今の指定管理団体の青少年女性活動協会のいわゆるノウハウがこういう新しい分野に行きつつあるという実感があります。

ただ、その変化にこの運営協議会の議論が、直接ではないにしても、もっと潜在的なところといいますか、根の部分では何がしかの肥料になっているのではないかと思います。今回の計画では受けました。特に3期の後半で、運営協議会そのもののあり方とか、そこは市との関係がありますのでまだ難しい点もあると思うのですが、次期の2年間というのは質的なサポートをしていこうということがあると思います。それに見合った協議といいますか、運営の中に参加をしていくシステムが必要だと思いますし、この中でもポータルサイトに関する専門的な委員会をつくるということがあったと思うのですが、有志のものも含めて、そういうものが幾つかできて、実際に僕もユーザーの一人ですが、しょっちゅう使っている人だったり、ふだんは地域で活動しているけれども、市民活動をしているとか、いろいろな立場の方々が頭を突き合わせる議論を吸い上げていくような、もう少し重層的な参加のシステムがこれから必要になってくると思うのです。

そこで、最後の意見ということで申し上げます。実は、運営協議会の開催回数が2回に

なっているのが私は非常に気になっていまして、そのあたりのつながりも含めて、位置づけも含めて、今回は見えてこなかったもので、それは非常に気になっているところです。そのあたりも、回数というよりは、先ほど三浦委員もおっしゃったように、現実的に話し合えるサイズであったり分野であったり、いろいろあると思うのです。そういうものは、今は単体の活動を支援しているわけですがけれども、今度はつなげていながら、そういうつながりから出てくるいろいろな意見を吸い上げていくようなシステムをつくってあげれば、今回のきめ細やかな支援も必要などころにうまくいくようなものになると思います。ただ、そうでなければ、下手をすると職員の負担がどんどん重くなるけれども、うまくかみ合っていないということにもなりかねないので、せっかくこうやっっている意見を、僕は聞いてくださっている方の機関だと思っていますので、ぜひ、そのあたりは効果的な運営参加のシステムをあわせて考えていただければと思います。

ありがとうございました。

横江座長 どうもありがとうございます。

やればやるだけ職員が大変になるのではなくて、せっかく多くの人が集っていますから、より効果的なシステムということで広範囲で考えていっていただきたいと思います。

では、宇野委員、お願いします。

宇野委員 今もそうなのですが、残念ながら、やはり4期目は委員の各個人の意見を聞き取るという場で終わってしまったことが、三浦委員が意見の蒸発と感じる部分であると思うのです。その後の扱いも、事務局の目線はどこにあるのかわからないなと思ったことがとても残念です。今も、この与えられた時間を1人一、二分でこの人数で回るともう9時になってしまいます。せっかく、一委員である三浦委員が投げかけてくれたものに対して議論ができないという場面も4期目はちょっと多かったと思います。

実は、私もいただいたメールの確認が遅くなりまして、きょうだったのです。せっかく投げかけてくれた三浦委員の左側の項目に沿って、自分なりにぱっと打って赤字で入れてきたものを読み上げます。元々この運営協議会というのは、指定管理者になる前からあって、やはり市民参加型の協議会の場合なのです。それが、指定管理者がこの本協議会を運営するところから、たまたま3期、4期と私は委員になりました。今は、指定管理者がこの協議会を設置する意義とか、その運営のあり方がとても急激に変わらなければいけないと努力している最中の期にちょうど私はかかわったのかなと思っています。また、委員の役割というものももう少し考えると、自主性が求められているのだなと思っています。

その一方で、皆さんもご存じのように、この施設が非公募の施設になったということで、これから先、財団は非公募の中でここを運営していくのだなという目線で、きょうは議論することではないのですが、別紙3を見せていただいたときに、やはり、62ページにあるような長いスパンで考えていかなければいけないというところで、改めて、第5期は、今後もこの市民参加型の協議会があるということのメリットを生かしていく仕組みを考えていかないと、市民が損をするのだなということをやっけないと、ちょっと無理かな

と思いました。

あとは、この協議会の要綱を私たちがうまく使いこなして、三浦委員が今回項目として上げてくださったようなメーリングリストとか有志の集まりというものも、この協議会の要綱を踏まえると、この場でそういうことを「いいね」「オーケーだね」という協議になれば動いていけたものも、確認できずに来てしまったことであいまいになっていったのだろうと思っています。

まだいろいろあるのですけれども、市民の参加の場であるということで最後に言いたいのは、ここに多様な視点が集まってきて、ここで協議できるという場は有効に使いたいと思うのです。この施設に関する委員の選定の中で、三浦委員は短い文章でしたけれども、多様な視点を持ち込むという意味では、ほかの施設にもかかわっている人もいると思うので、その辺は多様な視点が協議に生かされることが重要だと思います。この施設の利用度ということも必要ですけれども、それだけで選定を狭めない方がいいと思っています。

まだ言い足りないことがあるので、時間があればまた申し上げます。

本当にありがとうございました。お世話になりました。

横江座長 どうもありがとうございました。

なかなか時間が限られているので、いつも途中で終わっている感はあったのですけれども、多様な視点、多様な意見を取り入れるということが今後も大事だろうというご意見をいただきました。

では、岡田委員、お願いいたします。

岡田委員 きょう、事務局からこれからに向けての活動をいろいろお聞きしますと、指定管理者として、財団法人札幌市青少年女性活動協会というところが非常に意欲的に事業の活性化を図っているし、また努力していることがすごくよくわかり、私は本当に評価したいと思っています。

ただ、これから述べることは私自身の反省としてお聞きいただきたいのですが、私は、札幌に来てまだ間もないということと、こちらに赴任してきてすぐに杉岡先生から推薦されてこちらのメンバーに入れさせていただきました。今も杉岡先生から仕事が回ってきて、大体は期待にこたえられているなという自負は持っています。ただ、この委員にさせていただいたということについては、杉岡先生のミスキャストिंगだったのではないかと考えています。なぜかといいますと、委員になる前に事前訪問をさせていただいているとお話を伺っていると、非常に可能性があって、私の興味関心と結びついて、おもしろそうだと非常に感じたのです。

私は、ご存じのとおり、福祉の方が専門で、あとは地域ということに自分の専門性がございしますので、住民の組織化とか町内会活動とか、そういう仕掛けをつくって活性化していくということに非常に関心があるのですけれども、この協議会に参加している中では、私自身のこれまでの経験とか専門性が生かせない、貢献できないというじくじたるものを非常に感じていて、私自身がこのメンバーの中にもなかなか溶け込めないということも非

常を感じていました。あとは、福祉の会議などでは非常に自明なのですけれども、このメンバーの中で私の存在が、メンバーと共有する価値みたいなものが、私自身、ずっと見えなかったのです。そういう中で、この財団法人が展開して管理者としてやっていることについても、非常に重要なことをしているというのはよくわかるのですけれども、私自身の興味関心と接点が非常に結びつきにくかったと非常に感じていました。

そして、この協議会では、大体は報告を受けて意見を述べるということだったのですけれども、何かを求められても、私自身の役割がわからなかったのも、実は、参加していても余り楽しくなかったのです。この協議会の中の枠の設定に余り自由度がなかったのか、私自身が突破するような提案ができなかったのか、やっぱり福祉とは違ったのでうまく出せなかったのかなと思っていますけれども、今回、協議会のこれまでのあり方というか、実態というのは、私自身、つくる楽しさはなかったです。報告を受けて、意見を述べて、お墨つきを出しているだけにすぎなかった私の貢献というか、そういうことを非常に反省しております。

ちょうど任期が終了しますので、杉岡先生には相談させていただきたいと思っております。

以上です。

横江座長 ありがとうございます。

岡田委員には、いろいろ別の面で私も協力していただきましたけれども、いろいろな経験を持っておられるので、それをもっともっと生かされるとよかったのかなと思います。

では、坂井委員、お願いいたします。

坂井委員 ほとんど、今、皆さんから出てきているのですけれども、私も同様なことを感じています。今、宇野委員あるいは岡田委員からも話がありましたように、この協議会の性格が、協会の理事会ではないので、議決機関ということにはならないので、一つの指定管理者として、次期についても、先ほど説明がありましたようなものが出てくれば、その範囲の中でやっていくことになると、この協議会の独自性を打ち出すのはなかなか難しいのかなと考えながら、もう少し何か方法がなかったのかなということと、両面相まって考えているところです。

いずれにしても、来期以降、3回のものが2回になるということですから、先ほど三浦委員のお話の中でも委員数や時間の問題に触れられていますけれども、私も、もっと少人数で詰めてもいいから、分科会のような形でやったらどうなのだろうかという考え方を持っています。同時に、次期、新しく委員に就任される方については、その辺のオリエンテーションをもっとしっかりやっておくことによって、初回からの運営がスムーズにいくのではないかと感じております。

以上です。

横江座長 ありがとうございます。

では、榊委員、お願いします。

榑委員 今回、4期から参加させていただきまして、初めての経験ばかりで余りお役に立てなかったように考えております。唯一貢献できたと思うのは、メーリングリストを立ち上げたことです。ただ、それが余り機能しなかったことが非常に残念です。経費のダイエットという件もありましたけれども、ペーパーレスという道はあると思いますので、できればメーリングリストの有効的な活用も考えていただければいいなと思っております。

以上です。

横江座長 ありがとうございます。

参加して、早速、いろいろとつくっていただきました。どうもありがとうございます。

では、嶋委員、お願いします。

嶋委員 2期、お世話になりました。

私も、議題の中で自分の意見を言って、それがどのように発展していくのかというところでは、毎回、自分がどういう意見を言えば発展的に次に役立ったり構築していくようなものに結びつくのかということとずっと考えながら2期が終わってしまったという印象です。先ほどの感想にありましたように、報告を受けて、それに対して意見を言うというところでは、終わってしまったことに対して意見を言うというところでは発展的ではなかったので、実際に今は、タイムリーなものというより、将来的にとか、もうちょっとビジョンみたいなこととか、そういうところに対して、今すぐは実行できないかもしれないけれども、後々何か形になるというところに対しての議題があれば、1年の間に2回、3回の中で継続的にこの協議会が役に立つような討議ができたかなと思っています。

今回、指定管理という制限もあると思いますけれども、こういう提案書の中に盛り込むようなテーマを何か決めて、この協議会からの発信が一つ載るなどというふうになると、意見を出すこちらとしても張り合いがあるのではないかと感じました。でも、複合施設の運営という多岐にわたるところではテーマも絞りにくいので、協議会自体が本当に難しい集まりだなというふう実感しております。個人としては、市民活動の現場に触れる市民だったり個人だったり団体がふえていって、その人たちがスキルを上げて、まちづくりだったり、札幌市や周辺を豊かにしていく人材になっていけばいいなというふうに強く感じています。

ありがとうございました。

横江座長 ありがとうございます。

47ページにもありますけれども、人材育成ということで、リーダーがいまして、コーディネーター、ファシリテーターということでさまざまな意見をお聞きして、それを酌み取って、事務局の力量で実現させていくということで、大事な会議だったと思っています。

それぞれの委員からいろいろな意見をお聞きしたのですが、私は、これにかかわらせていただいて大変勉強になったと思っています。また、委員個人個人にもいろいろなところで協力いただいたり、参加していただいて、大変勉強させていただきました。札幌市が一番大事な施設としてこのエルプラザを展開してしまして、私は、地区センターや区

民センターにもかかわっていますけれども、常々、発言するのはエルプラザのことを思いながら、エルプラザがここまでできているのに、何で地区センターでできないのか、区民センターでできないのか。あるいは、エルプラザともっと連携して、今、エルプラザが各施設に出ようとしていますけれども、逆に各施設もエルプラザでやっているようなことを模範として、どうしてできないのかという意見もいろいろ言ってきて実現したのもたくさんありました。去年の10月にコミュニティ施設がかなり利用しやすくなりましたけれども、この今までの運営努力についての参考にさせてもらっています。

あとは、多様な意見ということで、よく自然保護で生物多様性と言います。私たちの社会も人々の多様な意見を取り入れてという面では、この市民活動の促進とはちょっとマッチングしなかったという委員もいるかもしれませんが、その人たちのいろいろな意見というのは、やはり違った角度から参考にされていると思うのです。そこでまた、事務局側の受け取り方とか工夫の仕方とか組み立て方、あるいは、今年度はできなかったけれども、次年度にどういうふうに生かしていくか、あるいは市との折衝でどこまで踏み込んでいくかということが先ほどの22年度からの計画で言われていましたけれども、立派な計画ができて、これを実行するのはなかなか大変なことで、皆さんの今までの経験を生かして意見を個々に伝えていただければありがたいと思います。皆さんが集って触れ合って学び合い、いろいろな気持ちを伝えていきたいと思っています。

私はいろいろな委員会にも出るのを感じるのですが、この委員会は時間が足りないのです。ということは、逆に言いますと、委員の皆さんが物すごく活発に意見を出してくれるということです。私が振りますと大体皆さんも言うので、一つの問題点についてなかなか深いところまで入れないというジレンマはあったと思うのですが、ぜひ、この経験を自分の団体なり地域なり、エルプラザなり、札幌市、北海道のために役立てて、また、多くの人材を育成していただきたいと思います。

私も、かかわって大変勉強になったというか、成長させてもらったというか、ちょっと悩んだこともありますけれども、事務局の方から助けられたりしてやってきました。一つ気がついたのは、いろいろな委員会があるのですが、何か問題点が出たら、よく別の委員会をつくりますね。委員が10人いるのですが、その中で3名あるいは5名で専門チーム、分科会をつくってやっていくと。宇野委員やいろいろな委員からもありましたが、それも一つの方法かと思います。みんなで集まっても、そこは私の専門分野と違うということもありますので、そうであれば、そちらに興味があるとか明るい方で分科会をつくって、本体は年に2回、3回しかないのですが、こちらで2回、3回の時間をとって詰めていくという方法もあると思います。先ほど言われていましたように、提案はしたのだけれども、時間がない、進まないということを突破できる工夫の一つかと思いました。

そういうことで、大変不慣れで皆さんにご迷惑をかけましたが、たくさん意見を出していただいたことは、私にとっては本当にうれしかったと思っています。

坂井委員 一言いいですか。先ほど言い忘れしました。

横江座長 坂井委員、どうぞ。

坂井委員 先般、北海道社協や道庁の市民活動をやっている担当部の方とお話しする機会があったのですが、かでの2・7、それから道民活動センターの別館がありますね。あそこの方がエルプラザの4施設の使い方や活動内容について非常に意識を持って、負けなようにということをやっているようですので、お伝えをしておきます。

横江座長 ありがとうございます。

かでの2・7も使ったり、ちえりあとかいろいろありますけれども、今、ちえりあが各講座を各区民センターとか館に提供しようということで、ご近所先生を盛んにやっています、先日、60名ほど選考されていまして、講座の企画が始まっています。市民の方々の人材育成を強力に推し進めているということもありますから、こちらは市民企画講座等で、あるいは皆さん方が多くの団体や個人を人材育成して、市のために、社会のためにつなげていただければうれしいと思います。

どなたか、意見の追加や言い忘れたということはいかがでしょうか。

宇野委員、いかがですか。

宇野委員 今も坂井委員がおっしゃった4施設というところで、次年度から、ここが非公募になったことで、それぞれの施設の運営協議会が予定されると思います。4期でもちらっと出たように、その4施設の協議会の協働というか、つながりのようなものの強化を切に望んでいるのですが、もし、その辺について現時点で何か構想があれば事務局に教えていただきたいと思っています。

というのは、それぞれがばらばらで市民参加の協議会があったのでは惜しいと思うのです。ほかの施設が注目しているというのは、市民参加の部分ももっと注目してもらいたい部分だと私は思っているのですが、どのようなものでしょうか。まだ言えませんか。

横江座長 事務局、いかがでしょうか。

事務局(岡本課長) 4施設のうち、消費者センターは別のところがやっていますので、私どもが管理しているのは男女共同参画センターと市民活動サポートセンターと環境プラザになります。施設は一つですけれども、残念ながら、札幌市の部局はそれぞれ別のところになっておりまして、特に局が分かると、そこが連携して何かをやるということは余り発注者の側では望まないという残念なところがあります。今のところ、私どもの提案でそういった会議体の構想はございません。

横江座長 わかりました。ありがとうございます。

社会貢献ということをいろいろと言っているのですが、最近は、持続可能な社会、サステナビリティなどいろいろ言われていまして、この協議会もまた新たに持続、継続していくと思いますので、ぜひ、今までの意見等を汲み取って、連続性、継続性のある形で運営していただきたいと思います。

ということで、時間が来ました。

本日の議事はすべて終了しましたので、これもちまして本日の運営協議会の議事を終

了いたしたいと思います。

どうもありがとうございます。

坂井委員 済みません、協議会が終わった後で、一言、皆さんにお願いというかご連絡させていただいてよろしいですか。

実は、ことしの10月30日、31日、土曜日の午後から日曜日の午前にかけて、全道の「ボランティア愛ランド北海道 in さっぽろ」が開催されまして、市民ホールで全体会合を行い、次の日に14か15、これは明日の夜の会議ではっきりしてくると思うのですが、分科会を行います。道社協と札幌市の社協の共同主催になるのでしょうか、そんな形になるものですから、ボランティアといっても、どうしても社協が主催をしていくと日ごろおつき合いがあるのが福祉系の団体ばかりなので、それ以外のボランティア団体、あるいはボランティア活動についての分科会ということになると、社協の方だけでは団体がそろわない可能性があります。そのときには、この市民活動サポートセンター、せっかくここで顔なじみになった皆さん方にもご協力のお声かけをするかもしれませんので、そのときはひとつよろしくお願いいたします。

横江座長 どうもありがとうございます。

事務局（会田主査） 横江座長を初め、委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。

今回の議事録につきましては、事務局で作成いたします。その後、皆様に送付をさせていただきまして、確認後、返送いただき、集約したものを市民活動サポートセンターのホームページに掲載させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますけれども、札幌エルプラザ公共4施設館長の大川よりごあいさつを申し上げます。

事務局（大川館長） 大川でございます。

一言、ごあいさつを申し上げます。

本日の事業運営協議会並びに第4期の終了に当たりまして、委員の皆様には一言お礼のごあいさつを申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、市民活動サポートセンターの運営につきまして長時間にわたりご検討いただきまして、まことにありがとうございました。座長をお務めいただきました横江委員には、重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

会議の冒頭、事務局長からもお話がありましたが、第4期の事業運営協議会は平成20年8月からスタートいたしまして、本日の5回目で約1年半という長きにわたりまして行われたわけでございますけれども、委員の皆様にはたくさんのご尽力をいただきまして、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後につきましても、利用いただいております皆様のご意見、または委員の皆様からいただきましたご意見を踏まえ、市民活動の拠点施設といたしまして、より一層機能を高め、利用しやすい施設づくりを目指してまいりたいと思っております。

委員の皆様におかれましても、今後とも市民活動サポートセンターの支援をいただければ幸いです。

簡単ではございますけれども、お礼のあいさつとさせていただきます。

本日は、まことにありがとうございました。

4 . 閉 会

事務局（会田主査） 以上をもちまして、第4期第5回札幌市市民活動サポートセンター事業運営協議会を終了いたします。

皆様、どうもありがとうございました。

以 上